

# エネルギー基本計画

再生可能エネルギーの最大導入・主力電源化

～にもかかわらず2030年度での目標は22-24%

原子力比率50%を見込んだ震災前の基本計画ですら再エネ比率20%なのに、この数字は小さすぎないか??

⇒国民負担を増やさない範囲での(国民が許容できる範囲での)再生可能エネルギーの最大導入

～系統費用を含めた費用の制約でこの数字になった

コストを削減すること、国民負担を軽減することが導入拡大に(コスト増が導入抑制に)直結。

→電源コストだけでなく系統費用も含めた総費用最小化を目指す事が重要に

# 電力システム改革

電力システム改革：市場メカニズムを有効に使うって、低廉で安定的で価値ある電力消費・電力供給を実現

～電化社会においてはエネルギーシステム改革の中核

肝心な点：行動に対して、その社会的価値に見合う報酬を得、その社会的費用に見合う費用を適切に負担すること。

Carbon Pricingに代表される、外部性に対応する適切な税・補助金政策と電力システム改革によって、**最小の費用**で超低炭素社会の実現を目指す。

# 再エネ大量導入後の電力システム

- ・電力の社会的費用は時間帯・季節によって元々大きな差が存在していたが、再エネの大量導入によって100,000倍以上の差が生じる事態となる。⇒漫然と電力消費していると社会的費用は膨れあがるか安定供給が維持できなくなる。

- ・低稼働電源が増える⇒最大発電量にあわせた送電容量を確保する旧来の発想では系統費用は膨れあがる。

これを変えるのが電力システム改革。

# 再エネ大量導入後の電力システム

・容量市場・調整力市場・時間前市場・スポット市場・先渡市場、先物市場、非化石電源価値市場、ベースロード電源市場。。。

～市場を作ればシステム改革が実現するわけではない。  
市場はあくまで、価値あるものの供給者にそれに見合う報酬を得る機会を与え、社会的費用に応じた負担をさせ、それによって人々の行動を変え、全体としての社会費用を削減するための手段。

細部の制度設計を間違えると市場が機能しなくなる。まだ道半ば。